



## Nagoya City University Academic Repository

学位の種類	博士（医学）
報告番号	甲第1744号
学位記番号	第1241号
氏名	津村 明美
授与年月日	令和2年3月25日
学位論文の題名	Reliability and validity of a Japanese version of the Psychosocial Assessment Tool for families of children with cancer (小児がん患者の家族のための Psychosocial Assessment Tool 日本語版の信頼性および妥当性の検討)  Japanese Journal of Clinical Oncology, 13: doi: 10.1093/jjco/hyz181, 2019

View metadata, citation and similar papers at CORE.ac.uk

provided by NCU Repository  
brought to you by  
CORE

田口 千寿 明一 郎, 上西 進 行

# 論文内容の要旨

## 1. 緒言

こどもががんに罹患するとその家族も危機的状態に陥る。小児がん患者の家族の良好な適応は患者の QOL に影響するため、医療者には心理社会的問題やリスクを有する家族を早期発見し、支援することが求められる。本研究では、心理社会的リスクを抱える小児がん患者の家族をスクリーニングするために開発された Psychosocial Assessment Tool (PAT2.0) 日本語版を作成し、わが国における信頼性と妥当性を検討することを目的とした。

## 2. 方法

PAT 開発者の Kazak 氏より承諾を得て、順翻訳および逆翻訳の手順を経て日本語に翻訳した。小児がん医療専門職者による内容妥当性検討、小児がん患者の家族を対象とした認知的インタビュー、開発者による確認を経て PAT2.0 日本語版を作成した。

小児がん患者の主介護者である母親を対象に横断的観察研究を実施した。実施にあたり、名古屋市立大学大学院医学研究科および各施設の倫理審査委員会の承認を得た。対象者を便宜的にサンプリングし、PAT2.0 日本語版、Patient Health Questionnaire 9 (PHQ-9)、Impact of Event Scale-Revised (IES-R)、Family Relationship Inventor (FRI)、Multidimensional Scale of Perceived Social Support (MSPSS)、Pediatric Quality of Life Inventory (PedsQL) について回答を依頼した。Consensus-based Standards for the selection of health Measurement Instruments に基づいて、内的一貫性、再テスト信頼性はそれぞれ Kuder-Richardson 20 (KR20)、及び級内相関係数を算出して検討した。基準関連妥当性は、PAT2.0 総スコアと各尺度スコアとのピアソンの相関係数を算出し併存妥当性を検証した。構成概念妥当性は、PAT2.0 総スコアと抑うつを有する母親の Receiver Operating Characteristic (ROC) 曲線により弁別妥当性を検証し、層別尤度比 (stratum-specific likelihood ratio : SSLR) によりカットオフ値を検討した。

## 3. 結果

122 名が研究参加に同意し、119 名から郵送で回答を得た (回収率 94%)。PAT2.0 に欠損のある 2 名を除く 117 名を分析対象とした。対象者の平均年齢は  $37.7 \pm 5.9$  歳、患者の平均年齢は  $6.2 \pm 5.0$  歳であった。

PAT2.0 総スコアの KR20 は 0.84、下位尺度のうち「家族構造と資源」「ストレス反応」「ファミリービリーフ」の KR20 は 0.70 未満であった。再テスト信頼性における PAT2.0 総スコアの級内相関係数は 0.92 で、全ての下位尺度が 0.60 以上であった。

PAT2.0 総スコアと各尺度との相関係数は、PHQ-9 は 0.49 ( $p < 0.001$ )、IES-R は 0.44 ( $p < 0.001$ )、PedsQL は -0.42 ( $p = 0.001$ )、FRI は -0.42 ( $p = 0.001$ )、MSPSS は -0.35 ( $p < 0.001$ ) であった。

抑うつのスクリーニングに関する PAT2.0 の感度は 92%、特異度は 63% (カットオフ値 0.94)、曲線下面積は 0.81 (95%信頼区間: 0.72–0.90) であった。SSLR は、PAT2.0 総スコアが 0.0–0.9、1.0–1.9、2.0–7.0 のとき、それぞれの尤度比は 0.3 (95%信頼区間: 0.1–0.7)、0.7 (0.4–1.1)、6.0 (2.9–12.6) であった。

## 4. 考察

PAT2.0 日本語版は、概ね良好な内的一貫性、再テスト信頼性、基準関連妥当性、構成概念妥当性をもつことが明らかになった。

信頼性について、内的一貫性は、総スコアは十分であったが、下位尺度の一部は不十分であった。これらの下位尺度は、幅広い概念を含み、文化的に影響を受ける要素が多いこと、項目数が少ないことによる影響が考えられる。再テスト信頼性は十分な安定性が確認された。

妥当性については、中程度以上の有意な相関による基準関連妥当性、抑うつを有する母親の弁別妥当性が確認された。特異度の小さい値は、抑うつの頻度の低さによる影響が考えられる。カットオフ値は、SSLR の結果から容認できる範囲であった。

親の評価によるスクリーニング可能な PAT2.0 の臨床での活用は、医療者による気づきの遅れや過小評価を抑制し、小児がん患者の家族の心理社会的問題のアセスメントの質の保持や促進につながる可能性がある。

## 5. 結論

小児がん患者の家族の心理社会的問題をスクリーニングするための PAT2.0 日本語版を開発し、その信頼性と妥当性が確認された。

## 論文審査の結果の要旨

【背景】小児がん患者の家族の良好な適応は患者の QOL に影響するため、医療者には心理社会的問題やリスクを有する家族を早期発見し、支援することが求められる。

【目的】小児がん患者の家族の心理社会的リスクをスクリーニングするための Psychosocial Assessment Tool (PAT2.0) 日本語版を作成し、わが国における信頼性と妥当性を検討した。

【方法】順翻訳および逆翻訳の手順を経て、PAT2.0 日本語版を作成した。小児がん患者の母親を対象に横断的観察研究を実施した。実施にあたり名古屋市立大学大学院医学研究科および各施設の倫理審査委員会の承認を得た。対象者に、PAT2.0 日本語版、Patient Health Questionnaire 9 (PHQ-9)、Impact of Event Scale-Revised (IES-R)、Family Relationship Inventor (FRI)、Multidimensional Scale of Perceived Social Support (MSPSS)、Pediatric Quality of Life Inventory (PedsQL) の回答を依頼した。内的一貫性、再テスト信頼性は、Kuder-Richardson 20 (KR20) 及び級内相関係数を算出した。基準関連妥当性は、PAT2.0 総スコアと各尺度スコアとのピアソンの相関係数を算出し併存妥当性を検証した。構成概念妥当性は、PAT2.0 総スコアと抑うつを有する母親の ROC 曲線により弁別妥当性を検証し、層別尤度比 (SSLR) によりカットオフ値を検討した。

【結果】122 名が研究参加に同意し、119 名から郵送で回答を得た (回収率 94%)。PAT2.0 に欠損のある 2 名を除く 117 名を分析対象とした。PAT2.0 総スコアの KR20 は 0.84、一部の下位尺度の KR20 は 0.70 未満であった。再テスト信頼性における PAT2.0 総スコアの級内相関係数は 0.92 で、全ての下位尺度が 0.60 以上であった。PAT2.0 総スコアと各尺度との相関係数は、PHQ-9 は 0.49、IES-R は 0.44、PedsQL は -0.42、FRI は -0.42、MSPSS は -0.35 の有意な相関があった。抑うつのスクリーニングに関する PAT2.0 の感度は 92%、特異度は 63% (カットオフ値 0.94)、曲線下面積は 0.81 (95%信頼区間: 0.72-0.90) であった。SSLR は、PAT2.0 総スコアが 0.0-0.9、1.0-1.9、2.0-7.0 のとき、それぞれの尤度比は 0.3、0.7、6.0 であった。

【考察】内的一貫性は、総スコアは十分であったが、下位尺度の一部は不十分であった。これらは、文化的に影響を受ける要素が多いこと等による影響が考えられた。再テスト信頼性は十分な安定性が確認された。また基準関連妥当性と弁別妥当性が確認された。小児がん患者の家族の心理社会的問題のスクリーニングのための PAT 日本語版を開発し、信頼性と妥当性が確認された。

【審査の内容】約 20 分間のプレゼンテーションの後に、主査の鈴木からは、妥当性と信頼性の違いおよび下位概念について、一部信頼性が低い項目が存在した理由、ROC 曲線の解釈、良好なスクリーニング法の要件など、主として統計学的手法や結果の解釈に関しての 5 項目の質問を行った。また第一副査の早野教授からは、尺度にストレスとストレッサーの双方の項目が含まれていることの妥当性、抑うつと PAT との相関の高さの重要性、PAT スコアが低いことによる潜在的問題の有無、SSLR のカットオフ値の設定方法、原版の結果との対比など研究デザインや解釈を中心とした 6 項目の質問がなされた。第二副査の上島教授からは、尺度作成時のレビュー方法の差異、再テストの間隔を 2 週間に設定した理由、便宜的サンプリングによる選択バイアスの問題、対象者の背景の詳細等、研究方法や結果を中心とした 6 つの質問がなされた。いずれに対しても概ね満足のいく回答が得られ、学位論文の主旨を十分理解していると判断した。本研究は、わが国の小児がん患者およびその家族に早期から適切なケアを提供するうえで有用な評価法の確立を行ったはじめての研究であり、意義の高い研究である。以上をもって本論文の著者には、博士 (医学) の称号を与えるに相応しいと判断した。